

2016年11-12月: JaCVAM活動マンスリーレポート

NO.	項 目	記 載 内 容
単行本		
1	著者名	小島 肇
	書名	有用性化粧品の処方とその活用
	出版社名, 発行地, 年号, ページ	シーエムシー出版, 東京 (2016) pp.147-151
	掲載内容 (150字以内)	化粧品の総合評価の方法について解説した.
国内学会		
1	発表者名	伊藤浩太 ^{*1} , 榊原隆史 ^{*1} , 古川正敏 ^{*1} , 奥村宗平 ^{*1} , 越田 美 ^{*1} , 河村公太郎 ^{*1} , 松浦正男 ^{*1} , 小島 肇
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	^{*1} 化合物安全性研究所
	演題名	牛摘出角膜を用いた混濁度及び透過性試験法(BCOP 法:眼刺激性代替法試験)における角膜の病理組織学的検査による弱刺激性物質の評価
	学会名, 発表年月及び場所	日本動物実験代替法学会第29回大会 (2016.11) (福岡)
2	発表者名	小島 肇
	演題名	JaCVAM における3Rs 原則と動物実験代替法
	学会名, 発表年月及び場所	日本動物実験代替法学会第29回大会 (2016.11) (福岡)
3	発表者名	萩原沙織 ^{*1} , 篠田伸介 ^{*1} , 仲原 聡 ^{*2} , 小島 肇, 大森 崇 ^{*3} , 遠藤麻衣 ^{*4} , 佐竹真悠子 ^{*4} , 池田英史 ^{*5} , 西浦英樹 ^{*6} , 笠原利彦 ^{*7} , 山本祐介 ^{*7} , 加藤雅一 ^{*8} , 菅原 桂 ^{*8}
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	^{*1} 株式会社薬物安全性試験センター ^{*2} 丸石ラボ株式会社 ^{*3} 神戸大学医学部 ^{*4} 同志社大学 ^{*5} 株式会社マングラム ^{*6} 日本コルマー株式会社 ^{*7} 富士フイルム株式会社 ^{*8} 株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング
	演題名	培養角膜上皮モデルLabCyte CORNEA-MODEL24眼刺激性試験の多施設バリデーション研究
	学会名, 発表年月及び場所	日本動物実験代替法学会第29回大会 (2016.11) (福岡)

4	発表者名	加藤義直 ^{*1} , 山本直樹 ^{*2} , 佐藤 淳 ^{*1} , 中田 悟 ^{*1} , 小島 肇
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	^{*1} 日本メナード化粧品株式会社 ^{*2} 藤田保健衛生大学 共同利用研究施設
	演題名	不死化ヒト角膜細胞株 (iHCE-NY) を用いて作製した三次元角膜再構築モデルの眼刺激性試験代替法 ～再構築ヒト角膜様上皮 (RhCE) 試験法用性能標準の30物質 (TG492PS) に対する回復性を取り入れた予測性～
	学会名, 発表年月及び場所	日本動物実験代替法学会第29回大会 (2016.11) (福岡)
5	発表者名	藤田正晴 ^{*1} , 笠原利彦 ^{*1} , 山本裕介 ^{*1} , 渡辺真一 ^{*2} , 菅原経継 ^{*2} , 若林晃次 ^{*3} , 田原 宥 ^{*3} , 堀江宣行 ^{*4} , 藤本恵一 ^{*4} , 高橋寛明 ^{*5} , 黒川嘉彦 ^{*5} , 小野 敦 ^{*6} , 小島 肇
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	^{*1} 富士フイルム株式会社 環境・品質マネジメント部 安全性評価センター ^{*2} ライオン株式会社 研究開発本部 環境・安全性評価センター ^{*3} 三井化学株式会社 RC・品質保証部 化学品安全センター ^{*4} 住友化学株式会社 生物環境科学研究所 ^{*5} 日産化学工業株式会社 生物科学研究所 安全性研究部 ^{*6} 岡山大学
	演題名	CysおよびLys誘導体を用いた皮膚感作性試験代替法 (ADRA法) のバリデーション研究のための技術移転結果報告
	学会名, 発表年月及び場所	日本動物実験代替法学会第29回大会 (2016.11) (福岡)
6	発表者名	松成夏美 ^{*1} , 九十九英恵 ^{*1} , 謝 丹 ^{*1} , 岡 朱音 ^{*1} , 小島 肇, 板垣宏 ^{*1}
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	^{*1} 横浜国立大学
	演題名	タンパク質のアレルギー性を評価するin vitro 試験法の開発
	学会名, 発表年月及び場所	日本動物実験代替法学会第29回大会 (2016.11) (福岡)
7	発表者名	内野 正, 宮崎 洋 ^{*1} , 山下邦彦 ^{*2} , 竹澤俊明 ^{*3} , 小島 肇, 秋山卓美, 五十嵐良明
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	^{*1} 株式会社ダイセル ^{*2} 大阪大学大学院医学系研究科 ^{*3} 農業・食品産業技術総合研究機構
	演題名	改良型コラーゲンビトリゲル膜チャンバーでのTHP-1細胞の細胞接着性及びサイトカイン産生量
	学会名, 発表年月及び場所	日本動物実験代替法学会第29回大会 (2016.11) (福岡)

8	発表者名	VO P.T.H ^{*1} , Narita K ^{*1} , Nakagawa F ^{*1} , Kojima H, Itagaki H ^{*1}
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	^{*1} Yokohama National University
	演題名	Reducing false negative results in an in vitro skin sensitization test: The human cell line activation test
	学会名, 発表年月及び場所	日本動物実験代替法学会第29回大会(2016.11)(福岡)
9	発表者名	小島 肇
	演題名	医薬品食品領域での動物愛護管理法の現在と未来
	学会名, 発表年月及び場所	NPO法人動物実験関係者連絡協議会 第5回シンポジウム「動物愛護管理法」の過去・現在・未来(2016.12)(東京)
国際学会		
1	発表者名	Kojima H.
	演題名 (和訳を括弧書きで記載)	“Guidance on use of alternative methods for testing in the safety assessment of cosmetics and quasi-drug”: 医薬部外品の安全性評価に資する動物実験代替法のガイダンス
	学会名, 発表年月及び場所	Asian Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences (Asian Congress) 2016, (2016.11) (Karatsu, Saga)
レギュラトリーサイエンス学会		
1	参加者名	小島 肇
	会議名(英文の場合は和訳も記載)	経済協力開発機構 皮膚感作性専門家会議および眼刺激性/腐食性専門家会議
	開催場所, 年月	フランス, パリ(2016.11)
	会議内容(150字以内)	日本から提案している皮膚感作性試験代替法IL-8 Luc assayの試験法ガイドライン(TG)案について説明し, 各国の代表と質疑応答を行った. 引き続き, 日本から提案している光安全性試験ROSアッセイのTG案の概要を説明した.
2	参加者名	小島 肇
	会議名(英文の場合は和訳も記載)	OECD(経済協力開発機構) 動物実験代替法バリデーション運営委員会会議
	開催場所, 年月	フランス, パリ(2016.11)
	会議内容(150字以内)	日本から申請して承認された「ガイダンスNo.231 Bhas42細胞形質転換試験」に用いるBhas42細胞が他の細胞とコンタミして, その起源が異なっていたことが最近発見された事情を説明した.